

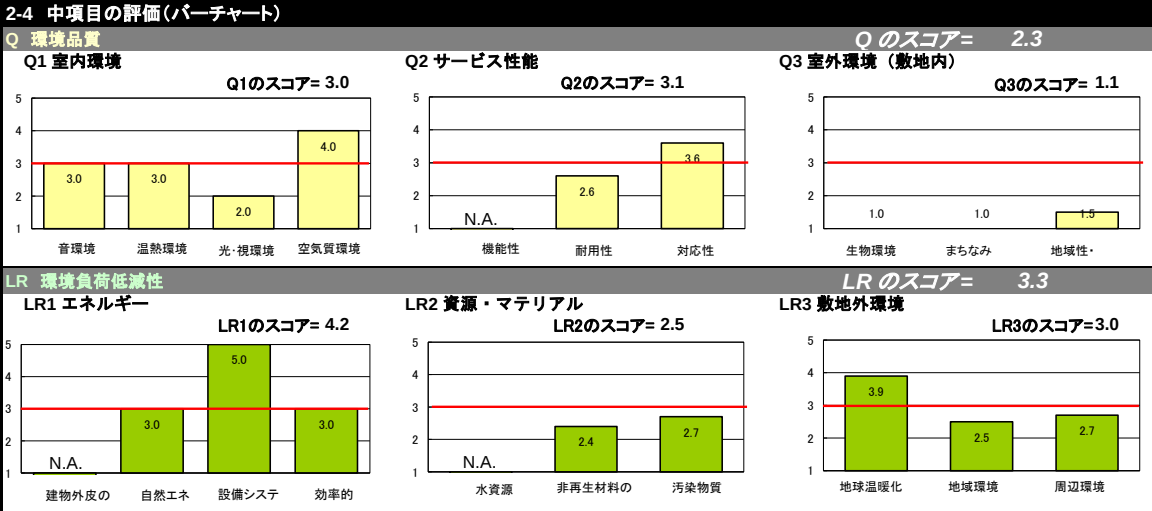
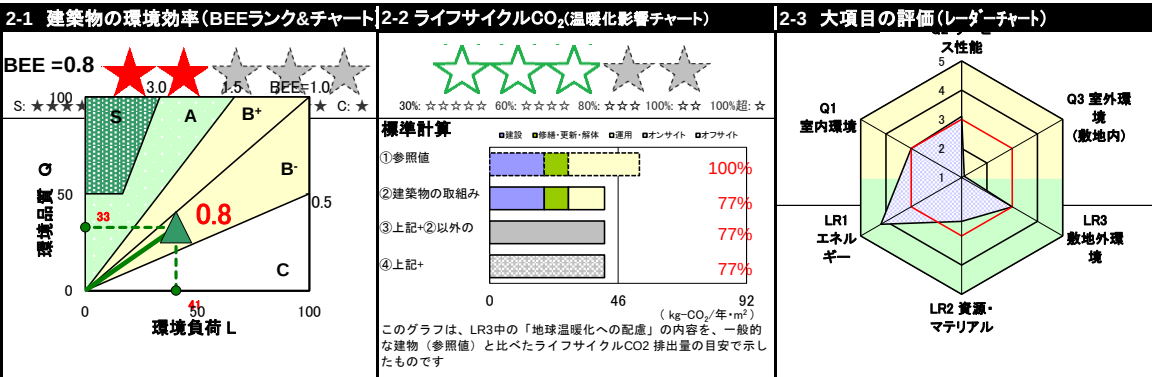


評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仮称)株式会社神精工	階数	地下0階地上1階
建設地	萩原町高木字三ツ屋30-1,31,32,33,34,45築込字道根18,19,20,21,22,23,24,28,29,30,31西御堂字土根21,36	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,285 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年11月 予定	評価の実施日	2024年10月15日
敷地面積	8,262 m ²	作成者	嶋田 剛士
建築面積	3,830 m ²	確認日	2024年10月15日
延床面積	3,740 m ²	確認者	嶋田 剛士



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.9	1.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	0.0 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.7	1.0
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	なし
	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)株式会社名神精工

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体							
	重点項目										評価点	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質																	2.3
Q1 室内環境						0.30			-								3.0
1 音環境					0.1	3.0	0.15										3.0
1.1 室内騒音レベル					3.0	3.0	0.40										
1.2 遮音					0.4	3.0	0.40										
1 開口部遮音性能						3.0	0.60										
2 界壁遮音性能						3.0	0.40										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																	
1.3 吸音						3.0	0.20										
2 温熱環境					0.3	3.0	0.35										3.0
2.1 室温制御					1.0	3.0	1.00										
1 室温					3.0	3.0	1.00										
2 外皮性能					3.0												
3 ゾーン別制御性					3.0												
2.2 湿度制御					3.0												
2.3 空調方式					3.0												
3 光・視環境					0.2	2.0	0.25										2.0
3.1 昼光利用					0.3	1.8	0.30										
1 昼光率					3.0	1.0	0.60										
2 方位別開口																	
3 昼光利用設備					3.0	3.0	0.40										
3.2 グレア対策					0.3	1.0	0.30										
1 昼光制御					5.0	1.0	1.00										
3.3 照度					3.0	3.0	0.15										
3.4 照明制御					3.0	3.0	0.25										
4 空気質環境					0.2	4.0	0.25										4.0
4.1 発生源対策					1.0	4.0	1.00										
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆を使用		4.0	1.00										
4.2 換気																	
1 換気量					3.0												
2 自然換気性能					3.0												
3 取り入れ外気への配慮					3.0												
4.3 運用管理																	
1 CO ₂ の監視					3.0												
2 喫煙の制御					3.0												
Q2 サービス性能						-	0.30										3.1
1 機能性																	
1.1 機能性・使いやすさ																	
1 広さ・収納性					3.0												
2 高度情報通信設備対応					3.0												
3 バリアフリー計画				独自	3.0												
1.2 心理性・快適性																	
1 広さ感・景観 (天井高)					3.0												
2 リフレッシュスペース					3.0												
3 内装計画					3.0												
1.3 維持管理																	
1 維持管理に配慮した設計					3.0												
2 維持管理用機能の確保																	
2 耐用性・信頼性					0.5	2.6	0.52										2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.4	3.0	0.48										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	3.0	0.80										
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20										
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	3.0	0.33										
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.42										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				②		3.0	0.42										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.17										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																	
6 主要設備機器の更新必要間隔																	
2.4 信頼性					0.1	1.4	0.19										
1 空調・換気設備					3.0	1.0	0.20										
2 給排水・衛生設備					3.0	1.0	0.20										
3 電気設備					3.0	1.0	0.20										
4 機械・配管支持方法				②	3.0	3.0	0.20										
5 通信・情報設備					3.0	1.0	0.20										

3 対応性・更新性			0.4	3.6	0.48	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			-	-	-	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.40	-	-	-	1.1
1 生物環境の保全と創出			独自③	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	1.0	0.40	-	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	1.5	0.30	-	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	1.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.51	3.0	5.0	0.63	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	2.5
1 水資源保護				-	-	-	-	-	-
1.1 節水				3.0	-	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				-	-	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	-	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				0.7	2.4	0.74	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	3.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	3.0	1.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			独自	3.0	2.0	0.05	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	3.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	2.7	0.26	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	2.6	0.68	-	-	-
1 消火剤				-	2.0	0.33	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.33	-	-	-
3 冷媒				3.0	3.0	0.33	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率77%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				0.3	2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			独自	-	3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制			独自	-	5.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 騒音			独自	-	3.0	1.00	-	-	-
2 振動			独自	-	-	-	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制				-	1.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制				0.2	1.6	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	1.0	0.70	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-

重点項目スコアシート
(仮称)株式会社名神精工

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいも版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	2.7
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.6	0.16	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.14	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.22	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 仮称)株式会社名神精工

計画上の配慮事項	
総合	
Q1 室内環境	空間を広くとり作業をしやすくしている
Q2 サービス性能	
Q3 室外環境(敷地内)	緑を敷地内にもうけ、駐車場を多く計画することで利用者に配慮している。
LR1 エネルギー	BEIm0.51 と基準値より良い数字をとっている
LR2 資源・マテリアル	
LR3 敷地外環境	
その他	